

大悲山峯定寺

〔当山は洛陽の北の方にして行程十里、鞍馬寺よりは亥子の方にして坂路五里なり。其中間に別所、

大布施の二邑あり。大布施といふは大悲山の片言なりといふ〕宗旨は天台にして聖護院に属す。楼門は南向にして金剛

力士を安ず。〔長六尺余〕夫より本堂に登る事十町あまり、巖石嶮々として歩しがたく、左右には老杉森々として暗く、

其中間に鐘堂あり。傍の石上には俊寛僧都の石塔婆あり。又其上の方に役行者堂あり、又其上に六所明神社〔所謂

六所明神は、熊野三所権現、金峯山金剛蔵王、八幡大菩薩、加茂下上、貴布禰大明神、地主鏡智童子これ当山の護法神

とす。建立のはじめは保元元年丙子三月朔日なり〕本堂は南向にして巖上に建つ。〔崖造りにして、岩づたひより後堂

に至り正面にいづる〕本尊は十一面千手観音〔唐の不空三蔵の作なり、秘仏〕仏舍利〔観世音腹内に安置す〕白山権現

〔当山北方の山中にあり〕開基は觀空上人、建立は平相国清盛。〔楼門の高梁に造営の奉行職を記す〕

抑当山の縁起は、少納言信西入道の撰にして文藻燦然たり、長章ゆゑ其大意を採、和解してこゝに記す。

夫一代の教主妙法を説給ふ、耆闍窟にしめて円乗をのべ三世覺母の衆生を利し給ふなり、清凉山に在て化道を弘給ふ。

大聖世尊猶靈地を凡夫行人争か勝境を捨ん、仏子の求願する所のものは无上正等の道、遊歴する所のものは名山大岳の

境なり、偏に跋渉を事とする時はいまだ嘗て寧居せず。こゝに鳳凰城の地のほとり、鞍馬寺の乾の方に一靈地あり、山

脚より山頂に至つて往々に奇峰あり、連々として相接、松柏鬱茂として昇峰崎嶇たり。仏子此地に至り恋々として去事

あたはず、忽茅茨をむすん